

授業づくり Work shop

3-3 「思考ツール（マッピング）の授業づくり」

福田 晃（金沢市立十一屋小学校）、小林 裕紀（茨城大学）

1 ワークショップのねらい

主体的・対話的な深い学びを実現する思考ツール（マッピング）の活用について考え、新たな授業デザインの知見の視座を持つことができる。

2 ワークショップの流れ

時間	内容
13:50	◇はじめに（5分） ・講師の紹介 ・WSが目指すゴールの説明
13:55	◇マッピングの概要説明（5分） ・これまでに行われてきたアナログでのマッピングと思考ツール（マッピング）の共通点、相違点を整理する。
14:00	◇事例発表（5分） ・単元を通して、思考ツール（マッピング）を活用した事例を紹介する。
14:05	◇操作体験（5分） ・SKY MENU Class マッピングの操作を体験する。
14:10	◇活用事例の検討（35分） ・グループごとに思考ツール（マッピング）を活用した事例について検討を行う。
14:45	◇活用事例の共有（15分） ・グループ内で出された活用事例を共有する。
15:00	◇まとめ（15分） ・クロストーク（福田・小林）

3 思考ツール（マッピング）の概要

マッピングは、これまでにイメージを広げたり、物事を関連付けたり、アイデアを生み出す場面などにおいて、様々な教科において活用が行われてきた。だが、マッピングを使い、自分の考えを手書きで表現した場合には、一度書いたものを修正ができなかったり、再度構成を見直したりすることはなかなかできない（写真1）。

だが、思考ツール（マッピング）を活用することによって、アナログとは異なり、試行錯誤を何度も行うことができる。また、マッピングの中に写真を取り入れることも可能である。さらに、マッピングを更新する際には、コピー機能を活用することもできるため、思考ツール（マッピング）をポートフォリオとして活用することもできる。

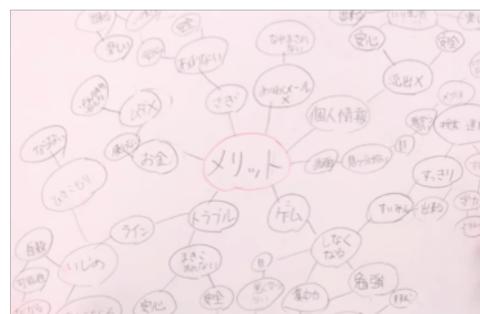


写真1：手書きのマッピング

4 実践事例

小学校6年・国語科「最後の授業参観で思いを伝えよう（話す・聞く）」

4-1 単元計画

一次	・学習の見通しを持つ
二次	・スピーチの構成をマッピングで表現する※ ・マッピングをもとにスピーチ内容を詳細化する※ ・他者からの評価を受け、スピーチの質を高める ・必要に応じて資料を作成し、リハーサルを行う
三次	・スピーチを聞き合う ・学習をふり返る

4-2 実践の概要

本実践では、スピーチ内容を考える際に、構成メモを作成するのではなく、マッピングで構成を表現することとした。

二次第1時では、学習の見通しを持たせるために、教科書で取り上げられているスピーチ例の内容を教師がマッピング化したものを児童に提示しながらスピーチを聞かせた。その後、一人ひとりがマッピング機能を活用し、構成を考えることができた。

二次第2時では、作成したマッピングではスピーチにならないことを気付かせるために、再度スピーチ例を聞かせた。どんな言葉がマッピングに表現されていなかったかを問うたところ、文末、疑問文、つなぎ言葉などが児童から出てきた。その後、自身のマッピングに不足している言葉を付け加えさせた。そして、マッピングとそこに付け加えた言葉をもとにスピーチを行った。

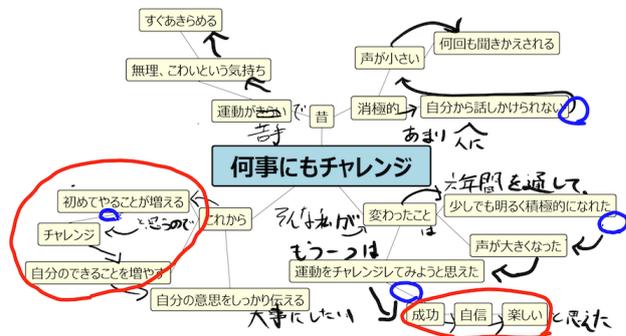


写真2：思考ツール（マッピング）

4-3 思考ツール（マッピング）活用のメリット

アナログでマッピングをすると何度も直すうちに見えづらいものになってしまうこととなり、結果的に修正意欲が下がることにつながる。だが、マッピング機能を活用することによって、単元を通して構成の見直しが可能となった。

また、マッピングによって、スピーチ内容が可視化できたということも大きな成果だった。スピーチの推敲場面では、音声上の指摘で終止してしまうのではなく、内容に関して議論する様子も見られた。具体的には、「この部分のところが分からなかったんだけど、言い方変えたほうが良いと思うよ。」といった指摘である。

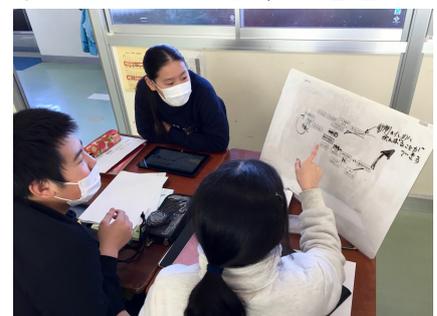


写真3：マッピングをもとに指摘しあう児童

※本実践は、『情報誌「学校とICT」2016年8月号：Sky株式会社発行』に寄稿したものを一部修正したものである。